

# 新聞記事から現代の課題を知り、自らの意見を考える教育の実践

## ～自ら生活情報を活用し、学び続けることを意識させる～

新潟県立阿賀黎明高等学校

### 1 NIE 実践のねらい

本校では、生徒の実態を踏まえて以下の3点を実践の狙いとした。

- (1) 日常生活に新聞を取り入れ社会で現在起こっていることについて幅広い関心をもつ
- (2) 自分の関心を引く記事を見つけ出し、その記事に関する自分の意見をもつ
- (3) 記事に関する自分の意見を文章や口頭で表現する

(1) については、本校の生徒はスマートフォンを通じてインターネットから情報を得ることが多く、日常的に新聞を読む生徒は少ない。このことから、まず新聞を開いてどんな記事が掲載されているのか見ることを生徒に促したいと考えた。また、学校の所在地である阿賀町に住み、地元に着して成長してきた生徒が多いことから、新聞記事を読むことによってより広い地域単位で現在何が起こっているのかに興味・関心をもって欲しいとも考えた。

(2)、(3) については、現況の教育現場では様々な場面で言語活動の充実が求められている。NIE を通じて、様々な記事を正しく読みこなす読解力、自分の意見を考える思考力、自分の意見を他者に紹介したり他者を説得したりすることができる表現力を育むことができると考え、実践のねらいに取り入れた。

### 2 本年度実践の概要

#### (1) 高校1年生の実践

##### ①NIE 活動の事前学習

本年度2年目のNIE活動を行うにあたりクラスごとにパワーポイントによる事前学習を実施した。生徒はNIE活動の目的や本校のねらい、昨年度と今年度の取組について学んだ。今年度の取組においては、9月から12月までの4ヶ月実践する新聞スクラップリレーを3年生が作成したノートを見ながら、その活動方法を学び、また、生徒の読解力と表現力を高めるためにNIE朝学習にも挑戦した。この事前学習を行ったことにより生徒は、NIE活動にスムーズに取り組むことができた。



【パワーポイントによる事前学習】



【スクラップリレーの活動方法を学ぶ】

## ②NIE 出前授業

今年度は1年生対象に9月6日に出前授業を実施した。講師として新潟日報社みらい読者編集委員の菅原真一先生をお招きし、「新聞を読む・知る・活用する」と題して講演していただいた。新聞記事について、1面記事の大切さや編集方法など菅原先生の経験を踏まえながら分かりやすく説明していただいた。また、生徒は全員に配付された新聞を用い、見出しに出ているワードを記事中から探す活動をし、そのワードがほぼ前文に含まれることから、必要なことは記事の前のほうに書いてあり、読んですぐに内容が分かる工夫がされていることを学んだ。



【菅原真一先生よりの授業】

## ③新聞記事の読解と意見表現

9～12月の月・木曜日をNIE朝学習に指定し、新聞記事の読み取り、記事の内容に関して自らの意見を考え、文章でまとめる課題を合計20回実施した。地元阿賀町に密着した話題、海洋ゴミ汚染問題、県内の高校生の取組、睡眠に関する内容、キャッシュレス決済、校則についてなど9つの記事を取り扱った。生徒が興味をもち、意見を書きやすい記事を選ぶなど工夫を凝らした。朝の5分間という短い時間での実践だったが、生徒の読解力の向上や記述の練習にもなった。



2019年11月15日付け 新潟日報

## ④新聞スクラップリレー

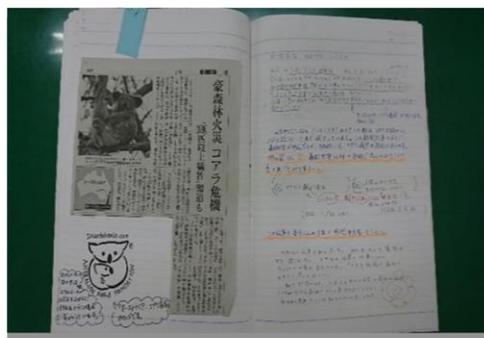
高校1年生は9月から新聞スクラップリレーを実施した。この活動は、NIE実践の導入前から現3年生が1年次より継続してきたものである。

活動の方法としては、クラスに割りあてられた新聞

から、生徒は順番に興味・関心をもった記事を選び、それをノートにスクラップし、自分の意見を5行以上書いて担任に提出する。担任がそれについてコメ

ン

トを書き、次の生徒に渡す。次の生徒は前の生徒が選んだ記事と意見の感想を書くとともに、自分が興味・関心をもった記事を選び、意見を書く。この繰り返しによってスクラップリレーノートが



2019年12月19日付け 新潟日報

この繰り返しによってスクラップリレーノートが

作成されていくという活動である。

12月で新聞の無料配付が終了したが、冬休み明け1月から3月までスクラップリレーを継続し、進級後はまた新たなクラスで継続予定である。

#### ⑤阿賀町を中心とした記事についてのグループワーク

高校2年生の国際・環境コースでは総合的な探究の時間において『阿賀学』を、教養コースでは地歴・公民科の学校設定科目『地域学』を学ぶ。高校1年生では、その事前学習として、配付された新聞各紙より阿賀町を中心とした記事を生徒にスクラップさせ、その記事について感想・考えについてグループワークをした。



【記事の感想・考えをまとめる】

#### ① 活動の説明(5分)

② 生徒は配付された新聞記事を読み、感想・考えをまとめる(5分)。

③ 各グループ(3人)で②を発表しあう(1人5分程度)。

④ ②の記事について、感想や考えを付箋に書く(7分)。

⑤ ②の記事と④の付箋を模造紙に貼る(5分)。



#### ⑥NIE 研究授業

高校1年生の家庭基礎の授業で、伊藤美恵子教諭により「生活をデザインする」と題し、高校卒業後の人生で、生徒が生活の主体者として新聞を通して自ら生活情報を活用し、学び続けることを意識させる研究授業を行った。また、研究授業教室の隣の教室を展示室として、NIE活動で作成した、高校1・3年生の新聞スクラップリレーノートやNIE朝学習などを展示した。



#### ⑦2019年の10大ニュースについてのグループワーク

9月からのNIE活動で新聞を活用することにより、世の中のニュースにどれだけ興味・関心をもったかグループワークした。2019年は例年になく出来事もあり、生徒は各班に分かれさまざまな分野のニュースについて活発に発言した。さらにこの実践が年末だったため、グループワーク後に、個別ワークとして読売新聞社主催の『日本の10大ニュース』・『世界の10大ニュース』のワークシートも活用した。



- ① 活動の説明(5分)
- ② 3名ずつの班になりチーム名と司会者・記録者・発表者を決める(3分)。
- ③ 班ごとに2019年におこった日本の10大ニュースをあげ、その内容を記録用紙に書く(10分)。
- ③ 各班の発表者は、記録用紙をもとに全員の前で発表する(1班5分)。
- ④ 座席を戻し、個別ワーク(読賣新聞社『日本の10大ニュース』『世界の10大ニュース』)記入

(高校1学年担当 中村 能子)

## (2) 高校2年生の実践

高校2年生は、新聞に親しむ活動を行った。自分が興味をもった記事、人に知らせたいニュースを1人1つ選び、クラス全員で一枚の模造紙に貼り掲示物を作ったり、ノートに記事を貼り、感想を書くことを順番に行った。また、担任が選んだ記事の感想を100字で書く取組も行った。

(高校2学年担当 伊藤 美恵子)

## (3) 高校3年生の実践

学年の取組として1年次からスクラップリレーを継続して行ってきた。活動の方式は、生徒が興味・関心をもった新聞記事を選び、それをノートにスクラップし、自分の意見を5~6行書いて担任に提出する。担任がそれを確認し、次の生徒に渡す。生徒は、前の生徒が選んだ記事と意見の感想を書くとともに、自分が興味・関心をもった記事を選び、意見を記す。この繰り返しによって、スクラップノートが作成されていくという活動である。今年度は、企業などが求めている力である「コミュニケーション能力」をこの活動を通して身につけることを目標(相手の話を正しく理解して、自分の意見を述べること)に取り組んだ。

(高校3学年担当 渡辺 洋平)

## 4 研究発表会

### (1) 公開授業

- ①授業者 教諭 伊藤 美恵子
- ②普通科 1年1組 家庭基礎
- ③期 日 2019年11月13日(水)
- ④単元名 生活をデザインする
- ⑤単元のねらい

高校卒業後の人生には、さまざまなことが予想される。今後は、生活の主体者として自ら生活情報を活用し、学び続けることを意識させる。

### ⑥授業の目標

- ア) 新聞記事と家庭科の学習項目を関連づけて考える。
- イ) 新聞記事を活用して情報を読み取る力を高める。

### ⑦授業の実際

新聞から実際の生活を感じ取る

新聞記事は、私たちの生活に関連していることを知らせた。電子黒板を使い新聞記事を紹介した。「75歳からレフイル検診」「男性の育休増やすには フィンランド」「地域目線で犯罪防止」「筋肉増強剤で健康被害」「阿賀町でカメムシ捕獲量競催し」「保存袋でおいしく短時間調理」「洗剤を簡素に」「トレンチコート」など、新聞記事が伝えることは、高齢者の生活・消費生活・衣食住生活・地元地域のことも多々あると知った。



【記事についての意見交換】

### 生活情報源としての新聞記事を知る

信頼度が高く、情報の幅広さは、今後の人生の情報源に役立つことを伝え、ワークシートに以下の内容を記入させる。

新聞は、(私たちの生活に関わること) を伝えている。  
人生を(見通す)、(ライフスタイル) を考える助けになる。

### ライフスタイルを考える

ライフスタイルは、生活様式や生活の営み方のこと。人生観、習慣、価値観などを含む生き方であることを確認する。そして、具体例として男性の育休取得についての新聞記事を読ませた。ワークシートを使い、読み解かせ、男性の育休取得、ライフスタイルについて考えさせワークシートに記入させた。



【ワークシート記入】

### ⑧ワークシートの記述から

＜この記事を読んで、男性育休取得について考えたことを書こう。＞

- ・男性が育休をとって、子育てを手伝うことで、女性も子どもも幸せになれると思うからいいと思う。職業によって男性は子育てをするという考えがないので育休を取るのが難しいのかなあと思った。(男)
- ・女性は多いのに男性だけ少ないから、とても不公平だと思った。男性も育児をするはずなのに。(男)
- ・女性だけ育休をするとなるとつらいことだと思います。男性が育休を取ることができるなら女性にとってもよいことだと思います。(女)
- ・もっと日本の男性が育休を取りやすい環境を作ってあげるべきだと思った。(女)
- ・国会議員は法律とか政治に関わっているから育休取って、子どもの考えや命の大切さを体験できるからより日本がよくなると思う。(男)
- ・記事に「人の命にかかわるような法律もつくる議員という立場だからこそ、命の誕生に立ち会い、命の尊さを体験することは大事」と書いていて、私たちが考えていることを自

分で体験していい法律とかを作って欲しいと思いました。(女)

・希望が 86%もあるのに取得が 10%しかないのでおかしいと思う。男性が育休取得しやすい社会になればいいなと思いました。(男)

#### <授業の感想>

- ・新聞をじっくり読んだことがありませんでしたが、実際に読んでみると自分にとって気になる記事がたくさんありました。(女)
- ・全く読んでいない新聞を読んで意外とおもしろかった。(男)
- ・わかりやすかった。新聞にはたくさんの情報があることが分かった。(男)

## (2) 協議会

3 グループ、以下の内容でグループ協議を行った。

(協議題 1) 「新聞にはどんな情報が載っているか」に関するグループ活動は、生活の主体者として新聞記事に関心をもつのに有効であったか。

(協議題 2) 授業者が提示した「男性育休 進むか日本」などの新聞記事は、生徒が自分自身のライフスタイルを考えるきっかけにするのに有効であったか。

#### 【協議記録から】

##### (協議題 1)

- ・普段みない幅広い多様な記事を紹介していた。
- ・「生活の主体者」というところは難しかった。しかし、グループ活動の中で、主体的に記事を読んだり、選んだりする生徒が多かった。プリントにあるように新聞記事に興味関心を持っているようだった。
- ・これまで学んだ分野の記事から探すと生徒の主体性が育つかも。

##### (協議題 2)

- ・小泉進次郎氏の話は、メディアでも多く取り上げられていたので、男性の育休については興味を持っている生徒も居るようであった。
- ・生徒の考えをアウトプットする時間がもっと必要だった。
- ・男性も希望があるのに（育休を）取れないのはなぜか、ということが、ライフスタイルを考えることになっている。

#### 【講評】

新潟大学創生学部田中一裕准教授より、「生徒が新聞への関心を高められたのではないか、ワークシートを使ったことで、新聞を読み解くスキルを学ぶことができた。」等、講評をいただいた。

## 5 成果

次の(1)～(3)の本校の NIE のねらいに対する成果を下のように考える。

- (1) 日常生活に新聞を取り入れ社会で現在起こっていることについて幅広い関心をもつ
- (2) 自分の関心を引く記事を見つけ出し、その記事に関する自分の意見をもつ

### (3) 記事に関する自分の意見を文章や口頭で表現する

新聞スクラップリレーや朝学習の新聞読み解き等、これまでの取り組みを踏襲し、さまざまな取組を1年生中心に行った。スクラップリレーでは、新聞を読み、社会で起こっていることを知り、興味・関心を持った記事を紹介し、意見を書くことをとおして、自分の考えをまとめ、人に伝える文章を書く、表現する力を養った。阿賀町に関する記事を探すことで生活する地域に関心を持つことができた。今後の学習活動に生きると考える。また、何かのためというわけではなく新聞を眺める、「あの記事見た?」「あれってさあ・・・」などと会話する生徒もいた。まさに、「日常生活に新聞が取り入れられ、社会の出来事に関心を持つ」である。教員も授業や進路指導の資料、教材等に6紙の新聞を活用させてもらうことができた。以上がこの活動の成果である。 (高校2学年担当 伊藤 美恵子)